

愛&ハート

■ 法人本部 事務局長就任のご挨拶

■ キックオフ 全体会議

■ 愛の家さくらまつり

■ 愛の家

- 初・マグロの解体ショー
- 子ども達の声(子ども会議)
- 『工房みさき』の新作業について
- 新人職員紹介

■ あいハート須磨

- 食の楽しみ
- お花見
- 新人職員紹介

■ あいハート離宮前

- 情報発信における取り組み

あいハート須磨
特養利用者さん

2024 May

270号



法人本部 事務局 局長就任のご挨拶



根木 浩司

4月1日より法人本部の事務局長に就任いたしました根木浩司です。口頃は、当法人の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私は2007年に当法人へ入職し、あいハート須磨で社会福祉士として相談援助業務に長く携わりました。その後、2019年にあいハート須磨・事務長、2022年に同・副施設長に就任し、施設運営に関する業務を幅広く経験してまいりました。当時は特定の部門に属した福祉専門職の職員が事務長や副施設長という施設運営の中核的な役割を担う前例がなかったため、就任当初は「本当に私で良いのか、私に何ができるのか」という不安があったことを強く覚えています。

あいハート須磨での事務長・副施設長在任中、特養の増築（増床）と大規模改修工事、あいハート南町（デイサービス）の閉業、脑梗塞リハビリテーション神戸須磨の開業、法人全体の賃金制度と人事考課制度の見直し、そして新型コロナウイルス感染症への対応など、いくつかの大きな出来事に携わることができました。私が直接的に対応したり、中核的な役割を手掛けたりしたものばかりではありませんが、法人または施設が方針や対応方法を決定する際のプロセスに深く関わること

ができたと感じています。これらは長く施設運営に携わっていても度々経験できることではないため、自分にとって非常に貴重な経験と成長の機会となりました。施設の運営を支える部門長をはじめとする職員の方々や、外部・内部の関係者の方々のサポートがあつてこそ得られた経験だったと感じています。皆様に改めて感謝申し上げます。

法人本部の事務局長という大役は、私にとって非常に大きなチャレンジとなります。今後、当法人が安定的に事業を継続しながら、さらに発展し続けられる組織であるために、私自身も目に見える成果を生み出していくことがこれまで以上に求められるからです。そのためにも、まずは様々なことをインプットして知見を広げていきたいという所存です。

一方で、福祉専門職というバックボーンが私の最大の特徴・強みであり、当法人における存在意義だと思っています。将来的にはこれを生かした形でさらに「地域社会」と「法人・施設の発展」に貢献できるようにすることが目標です。

短期的には目の前にある課題に着手し、一つ一つ成果を出しながら自分自身の足場を固めつつ、中長期的には法人・施設が提供するサービスの価値を更に高め、発展的・永続的な事業運営につながるよう、自己研鑽を重ねながら全力で取り組んでいきたいと考えております。今後の皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

キックオフ 全体会議



4月1日(月)に、愛の家、あいハート須磨・離宮前において、2024年度キックオフ(事業計画説明会)が開催されました。

冒頭では、新たに法人の仲間となった新人職員(愛の家3名、あいハート須磨6名)が紹介され、それぞれ一言ずつ挨拶を行いました。

また、永年勤続職員への感謝状と記念品の贈呈、2023年度における事業計画を達成した部門に対しての感謝状が授与されました。

その後、2024年度事業計画について、施設長、各部門長が説明と決意表明を行いました。今年度は中期経営計画(2023~20

25年度の2年目に当たり、掲げた計画・目標の達成に向けた取り組みをさらに推進していく年度となります。

新型コロナウイルスの影響で中止・縮小してきた行事も徐々に再開する見通しで、活気にあふれる日常が戻ってくる見込みの年となります。

職員一丸となって、気持ちも新たに日々の業務に励んでまいりますので、今後もご支援のほどお願い申し上げます。



愛の家さくらまつり

● 事務スタッフ

多田 緑

4月6日(土)、愛の家にて第10回「さくらまつり」が開催されました。

今年のメインはなんと「まぐろ解体ショー」です。30キロのキハダマグロに利用者さん達は驚きの声をあげながら早速記念撮影。その後ショーがスタートし、見事な包丁捌きの末にまぐろの丼として利用者さんに提供されました。色鮮やかな赤身に「美味しい!」「もっと



と食べたい!」との声が多く聞かれました。(当日の詳しい様子は別記事でご覧ください)



今年のさくらまつりは、普段お刺身を食べる機会がない利用者さんにとって大変貴重なイベントとなりました。

施設長の「利用者さんに喜んでもらいたい」という思いを受け、解体ショーを提案実現してくださった給食委託事業者・日清医療食品株式会社の皆様、ありがとうございました。

愛の家

初・マグロの解体ショー

●かがやきスタッフ 金岡 奈摘

4月6日、さくら祭りが開催されました。今回初めてマグロの解体ショーが行われました。

大きくて丸々としたマグロが台に乗せられ利用者さんは写真を撮る際も気になってカメラではなくマグロを見ていました。写真撮影の後、いよいよ解体ショーがスタートしました。

普段見ることがない刀のような大きな包丁で頭を切り落とし、利用者さんの前に持ってきてくれました。子供たちは目をキラキラさせて「すごい」「キヤー恐い」と楽しんでいました。大人たちは「お腹空いた」「今日のご飯あれ出るん?」と美味しそうなものとして見ていました。大きかったマグロは次々と捌かれ、綺麗な赤身の刺身へと変わっていききました。ショーが終わり、昼食に出てきたのはとても美味しそうなマグロ丼でした。普段はあまり生ものを提供する機会がないので、食べなかったり、残してしまったり、口に合わない利用



者さんがいるのではないかとスタッフは不安を抱えていましたが、利用者さんはパクパクと食べていき、全員が完食されていました。その後、「美味しかったね。おかわりほしいな」「またマグロショーしてほしい」と利用者さんは満足された様子でした。職員からも「新鮮なマグロで美味しい」と好評でした。

私は利用者さんと食後の運動も兼ねて愛の家の桜を見に散歩へ行きました。1週間前は蕾が少しあるくらいだったのに、その日は満開で「さくら祭り」として最高のタイミングでした。

マグロの解体ショーは愛の家では初めてのイベントでしたが、利用者さんも職員も楽しめた大成功のイベントとなりました。開催を支えてくださった日清医療食品さんには利用者さんからも「楽しかった。またしてほしい」と日清さんに伝えて」と感謝の言葉がたくさんありました。再び開催できるといいなと思いました。また、これまでにない初イベントを考えて開催することも新鮮でいいなと思いました。

子ども達の声(子ども会議)

●きぼうスタッフ 後藤 雪乃

児童部(きぼう)では、毎月1回「子ども会議」を実施しています。会議では子ども達の声をより多く聴くことができるように取り組んでいます。また、意見交換を活発に行ってもらい、お互いの意見や声を聞く機会となるように努めています。



会議では、大きく分けて4つの議題について話し合っています。

1つ目は、レクリエーションについてです。子ども達の思いを取り入れた内容となるよう、季節や日本の文化などを学んでもらいながら意見を出してもらっています。子ども達の期待感や希望が高くて悩ましいこともあります。できる限り受け止めて対応しています。活動後には振り返りも行っています。「楽しかった」「またしたい」「もっとこうしてほしい」「またしたい」「もっとこうしてほしい」等、様々な声を今後の参考にしています。

2つ目は、マナーやルールについてです。日常の出来事や、学校、外出時に見たこと、思ったこと、感じたことについて話し合っています。価値観はそれぞれですが社会で必要な基本的なマナーやルール、善悪の違いなどについて学んでもらっています。

3つ目は、健康についてです。丈夫な身体作りを意識するきっかけとなるように風邪や感染症の予防対策の具体例を子ども達自身で考えて発表してもらいながら定期的に注意喚起を行っています。4つ目は、食事についてです。好きな食

べ物や苦手な食べ物、食べてみたいおやつ等、色々な声を聞くことができます。食事は、厚生労働省から発出される食料栄養摂取量を基準に提供されているため、子ども達の声を全て取り入れることは難しいですが、楽しみにしてもらえる食生活を目指して聞き取っています。

『工房みさき』の新作業について

●工房みさきスタッフ 川崎 由佳子

「工房みさき」は、2003年に創立し今年で22年目を迎えることができました。設立当初から利用されている利用者さんは現在8名、利用者数は定員上限の35名、多機能型事業として楽しく活動しています。

今回、ここ数年で大きく変化のあった作業内容についてお話をさせていただきます。以前は、食品販売や資源回収を主に活動していましたが、抜本的な作業内容の見直しを行った結果、内職作業の請負が増えつつあります。

内職作業は、のぼり旗・ひも・タオル・軍手が主な内容となります。とてもやりがいがある作業ですが、シンプルでわかりやすい分、作業単価も低いため、たくさんを数量をこなす必要があります。

愛の家「きぼう」新人職員紹介



私たちは利用者さんの工賃向上に向けて、近隣の商工会議所に足を運び相談させていただきました。企業への呼びかけや問い合わせなどのご協力があり、岬町や近隣企業の情報を

得たことは大変参考になりました。

また、職員間で議論も重ね『利用者さんが楽しく作業に取り組むことができる作業は何か?』を考え模索し、『一度やってみる』をモットーにチラシ折りやチラシ配り、100円均一商品作業を行うこととなりました。仕上がった品物を店舗で確認することができた100円均一商品を取り入れたことによって、作業に対するやりがいや満足度が上昇したと実感でき、嬉しく思います。

現在、工賃の平均(1カ月)が約8,300円となっていますが、今年度は9,500円を達成したいと思っています。そのためには各作業についての目標設定を細かく整理し管理することが大切です。今後とも頑張りますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



あらい ゆうひ
荒井 優陽

はじめまして、4月から愛の家「きぼう」に入職しました荒井優陽です。よろしくお願いします。

私は、大学で主に幼児教育を専攻し勉強していました。

母が保育士ということもあり保育園で働くことを考えていました。大学3年生のときに保育園実習と幼稚園実習、施設実習と実習経験をしました。その中の施設実習でこの愛の家「きぼう」に実習に来させていただき、その中で障がいを持った児童と関わることが自分にとって新たな考え方をするためきつかけになると思います、実習からそのままアルバイトとして2年ほど働かせていただきました。

大学では、幼児教育の中でも主に「遊び」について勉強していました。具体的には遊びのアレンジや聞こえやすい絵本の読み聞かせなど、子ども達が楽しめるような遊びについて学んでいたものでそれらを活かしていきたいです。

大学で学んだ知識とアルバイトでの経験を活かして子ども達個々にあった支援を心掛け頑張りたいと思います。



こだま わか
児玉 和夏

4月から愛の家に入職しました。児玉和夏です。よろしくお願いします。

大学では主に幼児教育の勉強をしていました。私は4年生の「愛の家」での実習で子ども達と出会ったことがきっかけとなり、子ども達の支援に関わる仕事になりたいと考えました。特に自分にとって当たり前でできていることがここでは当たり前ではないということを知り、障がいについて学びたいなと思いました。

また、実習後に「愛の家」でアルバイトをするようになり実習のときよりも子ども達とたくさん関わる機会が増えました。そして、ひとり一人に合わせた支援ができるようになりたいなと思うようになり、更に専門的な学びを深めていきたいと思うようになりました。

入職してまだ短い期間しか経っていませんが、子ども達と関わるのはとても楽しい分、どういった支援をしたらいいのかと悩むことがあります。まだまだ分からないことも多いですが、優しい先輩達と一緒に協力しながら頑張りたいなと思います。



さとう はるか
佐藤 令香

4月1日に入社しました。佐藤令香と申します。よろしくお願いします。

大学時代には心理学を専攻していました。大学で学んだ知識を活かしたいと思い、2年生の頃、フリースクールでアルバイトを始めました。その際、子ども達ひとり一人の個性の違いによる支援の難しさを知り、知識だけでは支援ができないということを知りました。それと同時に、日々その子にあった接し方、支援方法をスタッフ同士で意見交換をしながら模索しました。その結果、課題解決に繋がりました。その結果が見られただけでなく、自身の心の成長にも繋がりました。私はこの経験から将来子ども達の特性に沿った支援を行い、できることを増やしてもらい将来の生活で活かしてほしいと思うようになりました。

不慣れな部分も多く迷惑をかけることも多い私ですが、少しでも早く仕事に慣れ、先輩スタッフの皆さんのように活動ができるよう頑張ります。そしてスタッフの皆さんと協力して障がい児支援を行ってまいります。

あいハート須磨

食の楽しみ

●ディサービス部門長 仙波 剛

ディサービス部門では、「食の楽しみを提供すること」を運営の柱の一つとして掲げており、厨房部門と連携をとって月に一度「できたて食堂」を実施しています。厨房スタッフがディサービスの食堂でご利用者の目の前で揚げ物や鉄板料理等を調理し、できたての食事を提供します。

揚げる音、焼く音もご利用者を感じていただく機会にもなっています。メニュー



ーは予め担当職員がご利用者に聞き取りを行い、聞き取り内容を整理し、年間計画で厨房部門に提案をしています。

ご利用者の希望メニューとしては、「お

好み焼き」「天婦羅」

「餃子」「ラーメン」「カ

ツカレー」「にぎり寿

司」「加古川かつめし」

「長田名物ぼっかけうどん」「大分名物

とり天」等があります。



あいハート須磨ディサービスセンターにおいて「おいしい食の提供」は必須であり、ご利用者の活力の源となります。ご利用者に満足していただけるように、今後も厨房部門と連携を取りながら、美味しい、満足していただける「食の提供」に努めていきたいと思っています。

最後に、日々食の提供に尽力して頂いている厨房部門からのコメントを紹介したいと思います。

【コメント】

月に一度、厨房スタッフがディサービスにお邪魔し、目の前で食事を作ります。鍋のグツグツした音、揚げ物を揚げている音、肉を焼く音、食材の香りを感じることは、「今日の料理はなんだろう」と想像力を掻き立て、食欲を刺激する効果があります。また、人は「美味しい」と感じることで幸せホルモンが分泌されます。私たち厨房スタッフも、目

の前で美味しそうに食べて下さるご利用者にお会いでき、幸せを感じる機会になっていきます。これからも様々な料理に挑戦し、「美味しい」と言っていただけよう頑張ります。

お花見

●特養介護スタッフ 川合 祥博

私はあいハート須磨に入職して今年の4月で丸十年を迎えました。この十年間の間に施設の様々な行事の開催に関わってきましたが、経過とともに行事の開催方法・内容が大きく変化してきたように思います。影響を与えた理由に職員体制の変化やご入居者の増加もありますが、何より大きかったのは新型コロナウイルスの流行でした。それまでの行事が感染拡大防止の為、全てできなくなった時期さえありました。

今回、私が担当したお花見も私が入職した当時は近くの妙法寺川公園までバスで行って、公園を散歩していただき、その後もお花見バスツアーとして桜並木のあるスポットをバスの中から見て回り、景色を楽しめる内容でした。コロナウイルスの蔓延によって施設の外へは出られなくなり、ベランダか



ら桜を眺めながら花見弁当を楽しむことが恒例となった時期もありましたが、少しずつ日常を取り戻し、昨年は施設外周を散歩しながら桜を楽しんだりするようになりました。

今年のお花見の話に戻しますと、開花予想（3月下旬）より遅れて4月初旬に施設の桜は満開になりました。晴れた日に職員の協力のもと、ご利用者と一緒に施設の外周を散歩したり、ベランダから入居者・利用者の皆さんに桜を楽しんだりしていただきました。

普段なかなか外に出る機会が少ないので、桜見たさに一生懸命にシルバークーラーを押して桜の木の下まで歩かれた方もおられました。少し肌寒さがありませんでしたが、「外はやっぱ気持ちいいね」「桜がとても綺麗」と笑顔で大変喜ばれました。お花見弁当も「すごく美味しいわ」と大変満足され、春の季節感を感じていただけた行事となりました。



あいハート須磨「特養介護スタッフ」新人職員紹介



あらき ひなた
荒木 ひなた

初めまして。荒木ひなたと申します。今年の2月からあいハート須磨デイサービスセンターで約2か月間働かせていただいたのちに、4月よりあいハート須磨特別養護老人ホームで働かせていただいております。

介護職の母からの勧めで介護の勉強を始め、つい先日介護職員初任者研修を修了いたしました。これまでに介護の経験がなく、未熟者ではありますが、精一杯努めてまいりますので、今後とも何卒よろしく願います。



はせがわ ななみ
長谷川 菜々美

みなさん初めまして。特養2階に配属になりました新入職員の長谷川菜々美と申します。

私は中学生の時に行事でグループホームに1週間行かせていただき、その時に介護を学びたいと思い介護が学べる須磨ノ浦高等学校へ入学しました。高校ではたくさん介護について学んだり、実習へ行かせてもらいました。そこでお世話になったのがあいハート須磨でした。

入職した今、実習とは違ってわからないこと、学ぶことが多いですが、利用者の方について学びを深めているところです。

不慣れなところも多いとは思いますが、職員という自覚を持ち、一日でも早く利用者の方一人ひとりのこと、介護技術についてなど知っていけるよう日々精進してまいります。これからよろしく願います。



かわはら みほこ
川原 美穂子

初めまして。4月からあいハート須磨の特養3階で働かせていただいております。川原美穂子と申します。

私が介護の仕事に興味を持ったきっかけは家の事情でヘルパー2級（現在は初任者研修）の資格を取ったことから始まり、子供がまだ小さい時に時短で働かせていただけたサービスに就職したのが介護の仕事にはまった最大の理由です。

あいハート須磨は亡き祖母が終の棲家として過ごした場所であり、私といたしましては祖母との楽しい思い出が沢山詰まった場所でもあります。そんなあいハート須磨で働けることは大変光栄に思っております。

まだまだ不慣れではございますが、ご利用者とのコミュニケーションを大切に一生懸命頑張っておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。



かわまた みずほ
河俣 瑞帆

初めまして。4月からあいハート須磨の特養部門で看護師として働いている河俣瑞帆と申します。

看護師としてここに来る前は、急性期病院で4年間勤めていました。病院で働く中で、一人ひとりの生活背景を基盤に考え、その人らしい関わりがしたいという思いが強くなりました。

あいハート須磨では「その人らしい生活をサポートする」ところが通い合う「ケア」を実現しています。多職種連携を行い利用者様の事を一番に考えているあいハート須磨に魅力を感じ、入職いたしました。

看護師としてまだまだ未熟ですが、利用者様が安心・安全に過ごせるように看護師として丁寧な関わりがしたいと思っています。これからもどうぞよろしく願います。



たけうち きょうこ
竹内 京子

みなさん初めまして。4月1日より特養部門3階に配属されました竹内京子と申します。この仕事を始めたきっかけは、20代で経験したワーキングホリデーでターミナルケアのボランティアを行い福祉の世界を初めて知ったことがきっかけです。

帰国後、特養施設のパート職員として働きながらヘルパー資格を取得、その後正社員として介護福祉士資格を取得し、従来型特養、ユニット型特養で約20年間現場に従事しておりました。まだまだ不慣れな事が多いのですが、有難いことにどの職員の方々からも部門の垣根なく丁寧に教えていただけております。

これからもうご指導ご鞭撻のほどよろしく願っています。

経験したことを活かしながら、一日でも早く皆様のお力になれるよう、努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。



よしだ せいな
吉田 聖南

初めまして。4月からあいハート須磨特養3階にて勤めさせていただいております。吉田聖南と申します。

私が介護福祉士を目指したきっかけは、祖母が病気を患っており、いざれ介護が必要になった際に力になりたいと思い、介護の専門学校で学び、その後8年間介護士として働いておりました。

経験したことを活かしながら、一日でも早く皆様のお力になれるよう、努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

あいハート離宮前

情報発信における取り組み

● 濱田 誠二郎

あいハート離宮前では、離宮前通信や愛&ハート等の紙媒体以外に2020年からイベントや研修等あらゆることを題材にしてインスタグラムでの情報発信を行っています。フォロー数も徐々に増え、インスタを覗てホームの雰囲気がよくわかったので、「と入居見学や職員面接に來られる方や「インスタでどこかに〇〇（ご入居者の名前）がないか探している、いつも楽しみにしています」とご家族様からも喜びの声をいただき、情報発信ツールとしての効果も表われています。

インスタグラムを活用するために色々な場面の写真撮影を行います。写真を撮影していると敬老会やミュージックセラピー等のイベントに参加しているご入居者様が大きな声で歌を歌ったり、おもしろい笑ったりと普段とは違う一面をみることでできます。こうした日々のちょっとした変化を収めた写真をインスタグラムだけでなく他の場面でも活用しています。例えばご家族様が面会等でホームに來られた際に写真を用いて近況をお伝えしています。以前は、口頭だけで日常の様子をお

せています。



伝えしており、言葉だけではなかなか伝わりづらいこともありましたが、写真をお見せすることでわかりやすく様子をお伝えで

また、毎月の請求書に同封してご入居者様の近況についてお手紙をお送りしているのですが、写真を掲載して少しでも様子が伝わるように工夫しています。最近では、運営懇談会を開催した際に展示作品コーナーを設けてご入居者様が制作した陶芸作品や習字等を展示したのですが、その制作風景を撮影した写真も掲示して運営懇談会に参加されたご家族様にご覧いただきました。

このように、写真を用いて視覚的な情報発信を行うことであいハート離宮前での生活をより深く知っていただけるようになっていえると思います。今後もあいハート離宮前の魅力を知っていただくために様々な形で情報発信をしていきたいと思っています。

ご支援をくださった方々

《3月》

後援会費

NTT労働組合データグループ本部関西分会 様
NTT労働組合ドコモグループ本部コミュニケーションズ
特別支部関西分会 様

寄付金

きらら保険サービス株式会社 様

マッチングギフト

NTT西日本グループ 様
株式会社 NTTドコモ 関西支社 様
株式会社 ドコモCS関西

(計6件)

「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等どのようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 072-494-0123
- あいハート須磨 078-737-2525
- あいハート離宮前 078-731-2130
- 法人本部 06-6458-5723

【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
TEL 06-6458-5723
Website <https://www.zendentu-kinki.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>
E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】

理事長 橋本 寿樹

